

アウシュビッツ視察&キエフ・ヨーガ療法ボランティア 体験レポート

小牧 理絵子

私の記憶にある、この旅への最初のきっかけは2009年秋。日曜ラージャ・ヨーガ修行会の際に、木村慧心先生、そして今回、団長として皆を率いてくださった古市佳也先生よりチェルノブイリ被ばく事故被災者支援の話があり、大きな衝撃を受けた。私自身がスピリチュアリティを向上させる為に、今後進んでいく道を教えてくださった気がした。また、先生方の活動やキエフの皆さんのおかげで、ヨーガ療法による健康促進効果の可能性をヨーガ教室の生徒さんへと伝える事ができていた。いつかは行きたいと、今回2016年9月21日から28日まで皆さんとご一緒させて頂いた。

ウクライナ・キエフでは、ゼムリャキの皆さん、またそこに関わる皆さんに暖かく迎えて頂き、ホームステイ生活。言葉は分からず多くを話せるわけでは無かったが、その分感じるものがあり、ほんの数日の滞在中に多くを共有していたように思う。国籍や人種、宗教を超えてつながれるヨーガ療法の力だろう。

ヨーガ療法の指導は、ウクライナ国立9番幼稚園、トロエシナ中学校・高等学校を訪問。幼稚園に通う子ども達にヨーガ療法を指導する機会を頂き、以前にもキエフの幼稚園で指導された古市先生よりアドバイスを受け準備した。その古市先生も木村先生からアドバイスを頂いたとの事。子ども達は、オルガ先生（YICで学ばれたこの幼稚園の先生）のもと、毎日20分程ヨーガ療法を実習しているそうで、その日もまずオルガ先生が普段のようにヨーガ療法を指導された。5歳の子ども達12名が、大変集中していた。その後続けて指導させてもらった。動きがあるもの、遊びを交えたものは楽しそうに笑いが起きていた。その日は、普段幼稚園が休みの土曜日で、特別なお祭りだった。観に来られていた親御さんにも、ヨーガ療法実習は好評だったと後ほど聞かせて頂いた。また、その後の折り紙教室も好評で、母子で真剣に、そして楽しんでおられる様子だった。



ウクライナ東部では戦争が続いており、この幼稚園ではロシア側と戦っている東部ウクライナの戦地から引っ越してきた子ども達を50名程受け入れ、食事は無料提供していると聞いた。今回通訳に入ってくくださった大学生のニーナさんも、戦地から引っ越してきて故郷には帰る事ができないという事だった。日本や、日本の文化が大好きと写真を見せてくれた。折り紙も好きという事で熱心に折り方を覚えていた。また、ヨーガについてはあまり知らなかったけれど、今回通訳をし、とても興味を持つようになった。

と話してくれた。

今回の旅では、ウクライナ・キエフへ行く前に、ポーランドにあるアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所を視察した。言わずと知れた負の世界遺産。不謹慎かもしれないが「綺麗なところだな。」そんな印象だった。一通り見学を終え、空を見上げると、広くて青くて吸い込まれるように綺麗で、空気も澄み、「ここにも神様はおられるのだろうか。」といった事を何気なく考えていた。ここで行われた残虐な事柄については述べるまでもなく、また私にとって想像する事は容易ではないが、今回足を運び、思いを寄せる事で、はっきりと気づかされた。それは、いつも木村先生がお話してくださっていた事で、学び、智慧というのは誰にも奪われない、そして祈りの力というのも同様だということ。必要以上に粗雑なものに労力を使う事は今後したくないと強い気持ちが出てきた。自分の場合、本を読んだだけでは、やはり他人事だったのだ。当初、強制収容所とは知らされず、新たな土地で新たな生活を送ると聞かされていたという人々は、持参した家財道具から衣服、貴金属、その他様々な物を奪われた。同様に多くの命は奪われ、生き残った者も全身の毛さえ奪われ、女性の長い髪は織物に、入れ墨の入った皮膚はランプの傘に使われ、また肉体を人体実験に使われる者もいた。人間の尊厳とされるようなもの等、何もない。ただ、そのような状況下においても、祈り人々を励まし続けた人がいた。その力は何なのか。奪い続け、それでもまだ奪い続ける者と、何も持たずとも与え続ける事ができる者。人々の光となることができる方の存在は、こうやって後世の私達へも一筋の希望を見せてくださる。同じ人間として誕生している筈が雲泥の差。自分自身がヨガを実践し続けている意味も再確認した。恵まれた環境で生きている私は、自分に甘い。日頃から自己制御して盗みや暴力に気づいておく、減らしておく必要がある。当たり前のようにできない事を、心の奥深いところで痛感していた。また、無名の犠牲となった多くの方々にも心を寄せておきたいし、日頃この世界で、多くの方が自分の生活を支えてくださっているのだと、これもまた当たり前のような事に気が付かされた。

「斯くの如く諸感覚器官の働きをしっかりと制御することが、ヨガであると言われている。この時行者は注意深くあらねばならない。それというのもヨガは（この世を）生じさせ、或いは消滅させるからである。」（カタ・ウパニシャッドIV-11）とあるが、今回の旅は、この YIC 初期、既に習っていた智慧を再度考えさせられる体験になった。そして、何千年も昔からこの人間の性質を知り、智慧を残し伝え続けてくださった聖者がおられた事にあたたかな気持ちを感じ、改めて光を感じている。

